2023年度 沖縄カトリック小学校 教職員アンケート集計結果

32名中 32名回答 回答率: 100%

(評価) A: そう思う B: ややそう思う C: あまりそう思わない D: そう思わない ©: 評価Aが70%以上 ▲評価Aが50%未満 ▲▲評価Aが30%以下

	内容	Α	評 B	価 C	D	
1	日々のお祈りや聖歌、宗教的行事などを大切にしていますか。	63	38	Ο	0	
2	神様の恵みに感謝することの大切さや思いやり、命の尊さに気付かせるような指導を心がけていますか。	72	25	3	0	0
3	一人一人に、あたたかい言葉をかけようと心がけていますか。	66	34	Ο	Ο	
4	教職員の資質向上・授業力向上のための研修に積極的に関わっていますか。	34	59	6	0	
5	基礎・基本の徹底と学習内容の確かな定着を図る授業をしていますか。	47	50	З	Ο	•
6	一人ひとりの学習状況を把握し、必要な個別指導を行っていますか。	27	60	13	0	
7	基礎的な内容だけでなく、発展的な学習も授業に取り入れていますか。	33	47	20	0	•
8	「良い姿勢」を意識するよう指導していますか。	50	47	ω	0	
9	集団生活に必要なきまりの大切さに気付くような指導をしていますか。	78	19	3	0	0
10	学校内で安全に過ごせるように指導をしていますか。	84	16	0	0	0
11	「正しい言葉遣い」ができるよう指導していますか。	56	41	З	Ο	
12	自分から進んであいさつが出来るように指導していますか。	50	47	3	0	
13	真剣に清掃ができるように指導していますか。	38	63	О	0	•
14	授業において、ICT端末の積極的活用ができていますか。	34	44	19	3	•
15	学校や児童の様子を保護者や外部に伝わるように心掛けていますか。	19	63	16	3	
16	教職員同士、いつも明るく笑顔であいさつするように心掛けていますか。	47	53	О	0	A
17	来客や電話などの際に、親切で丁寧な対応を心がけていますか。	69	31	0	0	

今後の改善策等

項目4:この学校の仕組みや流れがまだ把握できておらず、先輩方にわからない所を教えてもらいながら、授業の 改善や資質・能力の向上に努めていきたい。:日々の業務に追われないように計画していきたい。

項目6:読書の授業なので、困っていそうだったら声掛けを増やす。

項目5と7:基礎、発展といった位置づけを行わず、「つけたい力」を考えて授業をしています。

:感想を書かせるだけになっているので、本の紹介や話し合いの場を取り入れる。

項目14:後期からICTの活用を増やしていこうと計画しています。

: ICT端末は短時間の使用をしたいのですが、1人1台ではなく準備片付けに時間をとってしまうので使い切れていません。社会を担当している時は結構利用していました。

:読書の授業なので、取り入れていない、Wi-Fiが設置されていません。

: ICTの活用に関しては、子どもたちへの指導ができるようになりたいと思っていますが、現時点ではまだ取り組めていません。今後、取り入れている先生方のお話を参考にしながら活用していけたらいいなと思っています。: ICT端末を授業でも取り入れられる授業作りを行う。

項目15:保護者向けには、クラスルームの活用があまりできていませんが、そもそもクラスルームをどの 程度保護者が見ているか疑問を感じます。

よくできている点

- 日頃より、本校の教育モットーである「神への祈り(感謝の心)」を大切に、カトリック精神に基づく人間教育について心掛ける指導を継続して大切にしている。児童もテレビのニュース等で戦争やそれにまつわる国際紛争を見たり聞いたりする機会が多く、心を苦しめている児童もいると思われる。世界の平和を実現するために、自分ができることをグローバルな視点から見いだし、将来の自分の生き方に活かすように丁寧に伝えていきたい。
- 学校という社会においても必要なきまりが存在していることを、児童に様々な場面を通して伝え指導していることがうかがえる。しかし、廊下を走る姿はまだよく見かけ、校内での落ち着いた行動をとれるようになるまで、繰り返し伝えていく必要があるだろう。

課題点と改善点

- 年間5回のオープンクラスを実施し、2回の研究授業や職員研修を実施しているが、研修に対する取り組み方が十分積極的に行っていると自己評価する教員が3割と昨年よりも2割下がっている。新型感染症流行期には、オンライン等で積極的に参加していた先生が対面式が主流となった今年度では差が出たのかもしれない。また、アンケートの時期が9月で、九州地区研修会よりも前のため、評価が下がった可能性がある。4年ぶりとなる九州地区研修会には、これまでの最多14名が参加し、その学びを持ち帰り、自分や周囲への良い効果をもたらせてくれるだろう。
- 基礎基本の徹底と学力の定着に関しては、昨年度と同じく5割が最高のAをつけたが、「ややそう思う」のBをつけた教員も半数存在している。基礎と応用の違いや、区別に関して疑問に思う教員もいて、これからの「個別最適化」時代に、試行錯誤しながらどのように学力・学習力をつけるか自問自答している教師の姿が感じられる。全ての児童が身につける必要がある基礎基本的学力と、そこからどのように個々の伸びを促していくか、教師個々の取り組みのみならず、共有していく必要がある。
- 児童の清掃に関する指導がしっかりと行われていないと思われる。昨年度は6割近くが最高のAをつけたが、今年度は4割にとどまった。さまざまな業務に追われ、清掃を児童と共に行う余裕が無いのかもしれない。教師自らお手本として清掃に取り組み、早くきれいに掃除するための視点や観点を児童に身につけさせることが、整理し清潔にされた教室・学校を「気持ちよい」と感じるような子どもが育つと思う。同時に、どのように業務をスリム化し教師の余裕を作り出すのかを推進する必要がある。
- 教員同士の挨拶の最高評価が6割から5割に下がった。教員不足や業務過多、朝の挨拶をする間もなく 仕事に取りかかり、懸命に働いている先生がいる。挨拶をする余裕を持ち、共に大変さを分かち合い、 できることは協働しながら、楽しく働ける職場の雰囲気を管理職中心に培っていきたい。
- ☆ 今年度新設した項目(14・15)について
 - 14:授業において、ICT端末の積極的活用ができていますか。
 - ・ ギガスクール構想で配備されたクロームブックとアイパッドについて、9月の段階では1年生が利用を開始した頃ではあるが、評価AB合わせて8割にとどまった。2割の教員は、授業を担当していなかったり、教科的に利用する場面が無かったりという理由で使わなかったと思われる。または、使いたいけれども、一人一台でないため、利便性が低いことが原因とも思われる。

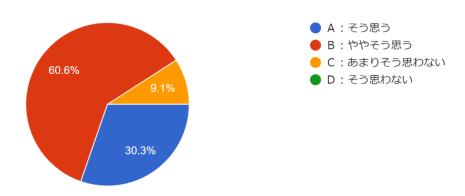
15: 学校や児童の様子を保護者や外部に伝わるように心掛けていますか。

• 評価AB合わせて8割がほぼできていると回答し、Googleクラスルームで日頃の授業や行事での児童の様子を写真や動画で伝える努力をしていることが分かる。しかし評価Aのみで見ると2割と低いと感じる。担任によっては、毎週のようにクラスルームに様子を掲載している方もいるが、保護者にどの程度見て頂いているのか分からないことから継続意欲を維持しにくいと思う先生がいる。また、専科では授業を担当しつつその様子も撮影する余裕や場面が作れないから掲載数が少ないと回答する先生もいるだろう。新型感染症の流行期には、授業参観や行事が少なく、学校の様子が分からないとの批判を受けることが多かったが、収束しつつある今、もっと積極的に伝える努力が私立である本校には必要不可欠であることを、再認識する必要があるだろう。

重点目標「自ら学び、ともに学び合う子」2023年度~1年目

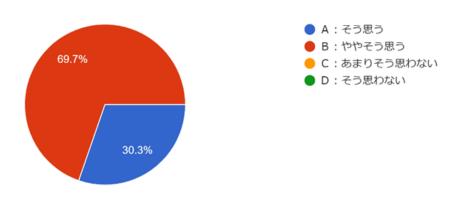
(1年目につき、前年度との比較はなし)

1. 「自ら学ぶ」について、学校生活全体を通して子ども達の姿を具体的に考えて取り組んでいる。 33.40回答



具体的に児童らが「自ら学ぶ」主体性を意識して取り組んでいる先生方が3割いるが、そうでない先生方も1割いる。特に、低学年では、「児童に委ねる」ような主体性を育む展開が難しいと思われる。後期に向けて、「児童自ら決定して学ぶ」ような主体性を育む指導展開について、事例研究を進めていく必要があると思われる。

2. 「ともに学び合う子」について、学校生活全体…子ども達の姿を具体的に考えて取り組んでいる。 33.40回答



具体的に児童らが「ともに学び合う」協働的な展開を意識して取り組んでいる先生方が3割で、 残りの7割の先生方は「ややそう思う」と回答されている。概ね主体性を重んじる指導や展開を 意識して教育活動をされていることがわかる。

これからの指導の在り方として、文科省が提唱する「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図るために、授業改善のための事例研究やICT機器の活用方法の共有などを推し進めるための取り組みが必要だと思われる。